

第11回
石尾 友紀さん

NPO 法人あしぶね舎 理事



子どもの未来は
地球の未来

NPO法人「あしぶね舎」の一員として、有機栽培の普及活動を行っている石尾さん。仕事で中南米など海外の人々の生活に触れる機会があり、自然とともに生きることを大切にしたいと考えるようになったことが、活動の原点だと言います。

かつては、仲間とともに「有機」をテーマにしたイベント「オーガニックフェスティバル」を開催して普及を図りましたが、コロナ禍を経て、石尾さんたちが次のステージとして選んだのが子どもたちへの教育です。

昨年度、あしぶね舎は市のパートナーシップ事業の採択を受け、長岡北小と葦山南小で、大豆の種まきから収穫後の味噌・豆腐作りまでの体験教室、有機栽培、食の大切さなどについての授業を行いました。「子どもたちがみんな前向きで、自分たちが汗流して大豆を育てたことに誇りを持っているのを感じました」と、1年間の活動を振り返ります。

今後は、中学校での授業や、「有機」をテーマにした映画の上映会の開催などを企画しているとのこと。「この事業は種まきみたいなプロジェクトだと思っています。芽が出るかどうかは分からないけれど、種をまかなければ芽は出てこない。子どもの未来は地球の未来。活動を通じて子どもたちの心に種をまき、少しでも可能性を広げたいです」と、子どもたちの将来に真剣なまなざしを向けます。

石尾さんにとって伊豆の国市は、「理想の場所」。故郷の群馬県から、より富士山や海に近い場所を追い求めて、伊豆の国市に行き着いたそう。「毎日美しい富士山を眺めて、気持ちを高めています」と微笑む石尾さん。今日も富士山のパワーを浴びて、子どもたちの未来に花を咲かせ「種まき」をしています。

連載
ジャルガルの
ほのぼの日記

国際交流員がモンゴルを紹介！

第61回 出会いと別れの季節



皆さん、サエンバエノー。うらかな春の日差しが心地よい季節となりました。私は日本の春が大好きです。富士山を背景に大仁梅林、狩野川リバーサイドパークの河津桜、狩野川さくら公園のソメイヨシノなど春の美しい風景を楽しむことができるからです。

モンゴルでは4月の気温が4度〜12度ほどで、雪が降る日もあり、花が咲き始めるのはまだまだ先です。桜の花びらが散りはじめ、出逢いと別れの季節とも言われるこのシーズン、少しセンチメンタルな気分になります。特に今年は、次男が中学校、長女が小学校を卒業し、5年間お世話になった先生方や仲良くしてくれた友達とお別れ

し、母国モンゴルへ帰国しました。帰る直前までの子どもたちの複雑な気持ちが強く感じられ、しばらくの間ですが、初めて離れて生活することになった私もなんだか寂しくなりました。しかし、日本語や日本文化に馴染み、日本が大好きになった子どもたちは、いつか第二の故郷、伊豆の国市を訪れることでしょうか。

アニメ好きな子どもたちに「モンゴルへ帰ってもアニメは見られるよね」とよく聞かれました。世界で愛される日本の漫画やアニメは、海外のクリエイターにも影響を与え、日本のアニメを見て育ち、モンゴルで活躍する漫画家も増えていきます。

1月にアニメーション映画化された『金の国水の国』の主人公の名前であるサーラとナランバヤルは、モンゴルでもポピュラーな名前です。私の姉の名前はサーラです。知人にもナランバヤルという人がいます。日本の漫画家が、主人公の名前にモンゴル人の名前を付けていることが興味深いですね。大草原の国モンゴルでもアニメファンが多く、好きなアニメを見る現代はうらやましいです。それでは、バヤルタエ。

☎ 055(948)1412
協働まちづくり課



狩野川堤防の桜並木を子どもたちと歩きました

かんたん手話講座 ③⑥
楽しみ

障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

5月から始まる手話奉仕員養成講座の受講者を募集します。詳しくは30ページをご覧ください。

「楽しい」と「待つ」という手話を続けて表現すると、「楽しみ」という意味になります。「楽しい」は指を軽く開いた両手を交互に上下に動かし、「待つ」は指を直角に曲げてあごの下につけます。

